The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	＜翻訳＞人間の詩
Author(s)	アクバラーバーディー，ナズィール；松村，耕光
Citation	印度民俗研究. 2025, 23, p. 77-83
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/102461
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

人間の詩（うた）

ナズィール・アクバラーバーディー　著
松村 耕光　訳・註

王様も、貧しい者も人間である
金持ちも、一文無しも、富を貪っている者も
　　パンのかけらを求めている者も人間である [1]

アブダールもクトゥブも、ガウスもワリーも、無神論者も異教徒も [2]
いろいろな奇跡を起こし、修行で得た力によって
　　創造主（かみ）と合一した者も人間である

自分は神であると主張したファラオも、楽園を作って神と称したシャッダードも [3]
自分を神と呼ばせたナムルードも——言うまでもなく——[4]
　　驕り高ぶっていただけで、みなこの世の人間である

人間は火であり光である——側にもいるし遠くにもいる [5]
善でもあり悪でもある——悪魔となって悪行を行う者も
　　人を善に導く者も人間である

友よ、モスクを作ったのは人間である——礼拝を取り仕切る者も、説教する者も
コーランを読む者も、礼拝する者も人間である——礼拝している人の履物

---

[1] Munshī Nawal Kishōr 版では「パンのかけらを求めている者」の部分は「パンのかけらを齧っている者」。

[2]「ワリー（walī）」は聖者。聖者には位階があり、頂点に立つのが「クトゥブ（quṯb）」或いは「ガウス（ghauth）」で「アブダール（abdāl）」は補佐する聖者たち。

[3]「シャッダード（Shaddād）」 アラビアの伝説上の王。天上にあるとされる楽園に対抗して豪華な花園イラム（Iram）を造営したと言われている。

[4]「ナムルード（Namrūd）」 旧約聖書ではニムロデと呼ばれている王。

[5] 火は地獄の業火を連想させるので悪を意味する。対して光は善。

を盗むのも[6]
　　泥棒に目を光らせているのも人間である

人に身を捧げる者も、人を切り殺す者も
ターバンを奪いとる者も、助けを求める者も[7]
　　助けに駆けつける者も人間である

手拍子をとりながら踊る者も、腰紐を解き
裸で踊って恥をかく者も、それを見て笑い転げる者も
　　笑われる者も人間である[8]

荷物を持って旅に出る者も、首に縄を巻きつけて旅人を殺す者も
獲物になる者も網（わな）になる者も人間である——息子よ——誠実ではあるが
　　嘘に塗れているのも人間である

結婚する者も法官（カーズィー）も、花嫁の代理人も結婚の証人も[9]
楽器を演奏する者も、松明を掲げて行進する者も人間である[10]
　　馬に跨っている花婿も人間である

行列の先払いとなって声を上げる者も、行列に加わって歩く者も、乗り物で参加する者も
水煙管、壺、靴を脇に抱えて道を空ける者も人間である——輿を肩に担いでいる者も[11]

---

6 礼拝時には履物を脱がなければならない。
7「ターバンを奪いとる」 名誉を奪う。
8 この連は Munshī Nawal Kishōr 版にはない。
9「法官（カーズィー）（qāẓī）」イスラーム法を司る判事。婚姻も管轄する。
10 結婚式での音楽演奏や松明による照明。
11 路上で物を売っていた者たちが行列を通すためにどかされる。

　　輿に乗っている者も人間である

商品を並べて座る者も、「これはどう」、「じゃあ買うよ」と言い合う者も
商品を並べた盆を頭に載せる者も、いろいろな売り方をする者も [12]
　　買う者も人間である

怒りの目を向けて争う者も、それを見て逃げ出す者も
使用人、奴隷、労働者になる者も、糞便の片づけをする者も
　　用を足した者も人間である

楽器の伴奏で様々な音色で歌う者も [13]
拍子をとって娼婦を踊らせる者も、自ら踊る者も——なんと楽しいことよ——[14]
　　それを見る者も人間である

人間は宝石のように高価であり、土より無価値である
鉄板の裏のように黒い者も、月のかけらのように白い者も
　　醜悪な者も人間である

威光に輝く者も、溢れる金銀の中で暮らす者も [15]
西から東まで光り輝き、金襴、緞子、厚い肩掛けを身に着ける者も

---

[12] Munshī Nawal Kishōr 版では「「これはどう」、「じゃあ買うよ」と言い合う者も」と「商品を並べた盆を頭に載せる者も」の位置が逆。また、同版では「いろいろな売り方をする者も」の部分は「あれこれ作って売る者も」。

[13]「楽器」の部分、原詩では「タブラ、マンジーラー（manjīrā——Munshī Nawal Kishōr 版ではマジーラー（majīrā）—— ハンド・シンバル)、ダーイラー（dā‘irah タンブリン)、サーランギー」。

[14] ‘Abd al-Bārī Āsī 編集版では「娼婦（ranḍī)」が伏字になっている。

[15]「溢れる金銀の中で暮らす者も」の部分、直訳すると「足に銀、頭に金という状態の者も」。

襤褸を纏う者も人間である

新床の、花の撒かれた煌めく褥で[16]
美しい人と抱き合い、あれこれ楽しみに耽る者も
　地面に倒れ込んでいる者も人間である

友よ、驚嘆すべき光景である——盗む者も、盗んだ者を捕まえる者も
真っ先に奪い取る者も、黙って拝借する者も人間である——白鑞のようでもあり[17]
　鉄のようでもある、それが人間である[18]

屍衣を準備する者も、遺体を洗い清めて担ぐ者も
神と預言者の名を唱え、さめざめと泣き、埋葬の準備をする者も
　死んだ者も人間である

貴い者も賤民も、王も高官も、名誉ある者もない者も[19]
弟子も長老も人間である——ナズィールよ——善良であると言われているが
　極悪千万なのも人間である

---

[16] 新床には花が撒かれる。
[17] 白鑞（ピューター）は柔らかく、形状を変えやすい。
[18] 鉄は固く、形状を変えにくい。この連は Munshī Nawal Kishōr 版にはない。
[19] Munshī Nawal Kishōr 版では「名誉ある者もない者も」の部分が「万事、物事を面白くするのは人間である」となっている。

解説

本稿は、デリーで生まれ、社会的混乱を避けてアクバラーバード（Akbarābād、アーグラー）で過ごした詩人ナズィール・アクバラーバーディー（Naẓīr Akbarābādī, d. 1830）の 5 半句 1 連の連詩「人間の詩（うた）」（ādmī nāmah）の翻訳である[20]。ナズィール・アクバラーバーディーは民衆の生活やムスリム、ヒンドゥーの祭を好んで詩のテーマとした詩人で、民衆の言葉を多用して詩作したため、エリート主義の詩壇には受け入れられず、長い間評価されなかった。「人間の詩（うた）」は彼の代表作である。

翻訳には‘Abd al-Bārī Āsī が編集した詩集 *Kulliyāt-e Naẓīr*（Lahore, 1986）を用い、Munshī Nawal Kishōr 版の詩集 *Kulliyāt-e Naẓīr Akbarābādī*（Lukhnow, n. d.）を参照した。前者の方が 2 連多い。前者では題名が「人間の哲学（ādmī kī filāsafī）」となっているが、「アードミー・ナーマ」という題名で知られている。人間（アードミー）について書かれた物（ナーマ）という意味である。本稿では人間の詩（うた）と訳した。

[20] aaaax、bbbbx、ccccx … という押韻形式で、第 5 半句末で「人間である」という言葉が反復されている。本稿では第 1、第 2 半句と第 3、第 4 半句をそれぞれまとめて 1 行とし、3 行 1 連として訳出した。